

● 顕現後第六主日

泉のほとり

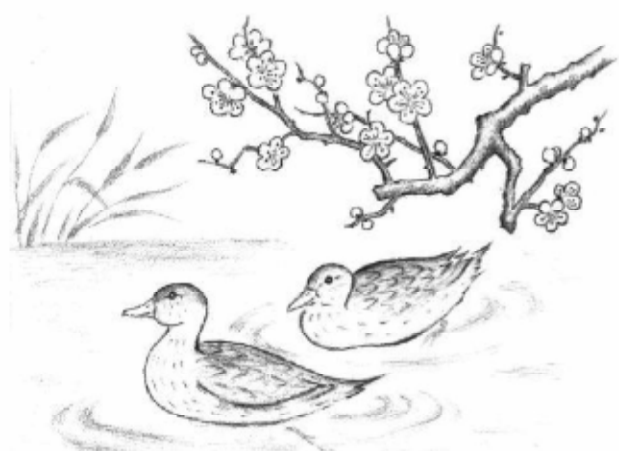
今月の詩編「第五十六編」

神の御言葉を賛美します。

神に依り頼めば恐れはありません。

肉にすぎない者が

わたしに何をなしえましよう。



あなたを休ませる方

受験や就職、あるいは病気のために、礼拝を守れなくなる時があります。礼拝を何よりも大切に、毎週休まず礼拝を守り続けた人にとつて、礼拝を休むことはとても悲しいことです。

けれども、礼拝を大切にしたいという思いを持つのは、わたしたちだけではありません。ファミリー派の人たちは、礼拝を守る安息日を何よりも大切にして、その日にしてはいけない仕事の掟をたくさん作りました。そして、主イエスは、この、礼拝をしなければならぬ、安息日を守らなければいけないという思いに挑戦されたのです。

ある安息日、主イエスと一緒に麦畑を歩いていた弟子たちが、麦の穂を摘んで、手で揉んで食べていました。麦の穂を摘んで手で揉むこと、それは安息日にしてはいけないことでした。

安息日の掟を破ったのは主ではなく弟子たちです。けれども主は、弟子たちのしたことを、ご自分のしたことだと言われました。かつてダビデ王が掟を破って自分たちの空腹を満たしたのに、どうしてわたしがしたいことをしてはいけないのか。わたしが安息日の主であると。

そして、別の安息日に主が会堂で教えておられたことです。ファリサイ派と律法学者が主イエスを訴えるため、主が安息日に人を癒やし、掟を破らないかと思っていました。主は彼らの考えに気付かれ、彼らの願っていた通

りに掟を破り、右手の萎えた女性の手を癒やされたのです。安息日に律法で本当に許されていること、主が望まれることは、命を救うことだからです。

安息日を大切にしたいという思いがいつの間にか、安息日を守らなければならぬという思いに変わり、掟を破った主イエスを最後には十字架につけてしまったのです。主イエスは掟を破り、命がけで、安息日は掟に縛られる日ではなくて、あなたが本当に休むことのできる日、命の救われる日だということを教えてくださいました。

けれども、毎週礼拝を守るのは大切なことです。礼拝を守らないで、自分のしたいことばかりをしていると、何のために生きていくのかわからなくなってしまう。安息日は自分を取り戻す日です。神さまはわたしたちのために安息日を定めてくださいました。

どんなに礼拝を守り続けたくても、守れなくなる時があります。けれども、そういう人は特別な人です。礼拝を守れない人の気持ちがわかるので、そういう人たちのことを覚えることができます。安息日は、礼拝しなければいけないと厳しい思いになる日ではありません。安息日は、礼拝を守ることのできる人は、お休みしている人のことを覚えて、お休みしている人は礼拝をしている人たちのことを覚えて、誰一人こぼれ落ちないで、皆で神さまの前に出て救っていただく日です。

まだ学んでいないこと

わたしは神に感謝する、わたしの仕える神に……

テモテへの手紙② 一章二節

わたし共の存在と持ち物とは

あなたからのものです。

わたし共の創造者であり救い主である方

あなたにわたし共は自身存在を

感謝すべきなのです。

しかしわたし共はそれを忘れ

あなたからいただいたものを

心から追い出してしまっています。

あなたに感謝することもなく。

こうしてわたし共はあなたに恩返し

空しい心と、悪事を返します。

わたしに感謝することを教えてください。

わたしが目で見るものに

耳で聞くものに

口で味わうものに

鼻で嗅ぐものに

肌で感じるものに、

感謝することを。

見えないものについて感謝することを

わたしに教えてください。

すで見えないものの中に

わたしが経験している見えるものに。

神は我々にその無数の恵みのわざによって、

喜び感謝する新たな根拠を繰り返し示し

てください。

エフェソ五・二〇へのカルヴァンの言葉

R・ポーレン著 「祈る」より

祈りは楠原博行氏の訳による

今日のお知らせ

○第一礼拝後、教会学校と並行して、ロビーでコーヒーマービスがあります。また園舎二階のリズム室では、「ぶどうの会」が開かれ、礼拝で受けた恵みの分かち合いをします。また、十時三十五分から、幼稚園舎二階のひまわりのお部屋で紫園香音楽伝道師の指導による賛美と祈りの会が開かれます。どうぞご参加ください。

○第二礼拝後、ホールで讚美と報告の会をします。お昼はカレーを一緒にいただきます。大人三百円、子ども二百円。

○午後二時から定例の役員会をカナルームで行います。役員はお集まりください。

○ホール集会の後、伊藤何里子姉による「健康エクササイズ」を行います。参加者は飲み物とタオルをお持ち下さい。

○二二日（金）朝一〇時半からシオンの会を行います。雪ノ下カチキズムの間一五〜一七を学びます。初めてのの方の参加を歓迎します。

ケニアだより

コイノニアの卒業生たち

コイノニアに二〇〇三年、〇四年に四歳で入学してきた生徒たち十一名が二〇一八年に卒業をしました。A.C.R.という一人一人が自分のペースで学ぶシステムでしたから、年齢が違っても同時期に卒業となったわけです。二〇一八年コイノニアカレッジの九月ページに移っている生徒たちです。

卒業生たちはそれぞれの夢を持って卒業しましたが、ケニアではすぐに大学に入ることができず、しばらく待たなければなりません。

大学入学までの間、職場体験として、様々な場での経験をしています。教師を目指す者はキューナ幼稚園で助手として働き、IT関係に進みたいものは、IT会社で、インテリアデザインをを目指す者はデザインオフィスで、音楽の先生になりたいものは、音楽学校で受付をしたり、DJになりたいものはすでにその道でバイトを始めました。職場体験で生徒を受け入れてくださった企業は、キューナ幼稚園の父母たちの会社です。

一人一人が自分の進む道を探し、新しい一歩を踏み出そうとしています。

コイノニアで学んだ、クリスチャンとしての生き方、誠実で働き者、物事を深く考え、想像力を用いて現実と向き合うことなどを実践していく歩みが始まります。そしてスラムを出て自立して生活することになります。

十一名の中でまずリリアンとマリアが大学に受け入れられ、二〇一九年一月から、ケニアック大学の教育学部に入学しました。授業料はタダではありません。しかし二人ともこれまで職場体験で交通費として支給されたお金を貯めて第二学期の学費を自分で払うことができました。これは自立の第一歩であり、素晴らしいことです。今後は政府からの奨学金を受け就職してから返済するシステムを利用するつもりです。また学校の近くに、

一人で共同生活をするようになりました。家賃はスポンサーが与えられ、生活費は自分たちで時間の空いているときに働くつもりです。

多くの人々の祈りと助けによって、彼女たちは同じスラムに住む同年代の友人たちとは全く違った生き方をするようになりました。彼らの生き方そのものがキリストに従うものとしての証となると信じています。

(市橋さくら記)

聖書の会へどうぞ

2月20日(水)

● 朝の聖書の会(10時)

「主イエスの納税」

マタイ17章22節〜27節

古村和雄牧師

● 聖書の夕べ(19時)

「あなたはわたしの子」

詩篇第2篇

古村和雄牧師

ミニコンサート

3月7日(木)12時30分より

ピアノ 原田信次郎「メロディーション」

次週礼拝

● 第一礼拝(午前9時30分)

讃美歌 小さいこどもの わたしのように

説教「罪を赦す方」

聖書 ルカ5章17〜26節

説教者 貴允澁 剛牧師

● 第二礼拝(午前11時10分)

讃美歌 73番 280番

詩篇 56篇

説教「不信仰な者の信仰」

聖書 ローマ4章1〜8節

説教者 古村和雄牧師



第一礼拝 (午前9時30分)

讃美歌 小さいこどものサムエルは
わたしのよう
説教 「言葉は命の種子」
聖書 ルカ8章4節～15節(新約 P118)
司式 山下 純一 兄
説教者・聖餐司式 古村和雄 牧師

前奏曲「アレグレット」 G.F.ヘンデル

○「小さいこどものサムエルは」

1. 小さいこどものサムエルは
神さまの呼ぶ声、聞きました
「サムエルよ、サムエルよ」
2. 小さい声で今日もまた
神さまの呼ぶ声、聞こえます
ぼくの名前も、わたしのも
「しもべは聞きます 主よ、お話しください」
アーメン

○教会学校生徒による讃美
「おおしくあれ」

○ピアノによる讃美
「いずみとあふるる」 讃美歌353番

○わたしのよう

1. わたしのよう 小さな子でも
真心こめて 主をたたえれば
主の御心に かなうでしょうか
※ 感謝します 感謝します 感謝します 神さま
2. 小鳥の声や きれいなもみじ
野菜 果物 海でとるもの
ふた親 兄弟 友達など
※ くりかえし
3. 何ものよりも 罪やあやまち
おゆるしになる イエス・キリストを
くださいました 父なる神に
※ くりかえし

聖餐曲「サラバンド」 E.サテ

後奏曲「フーガ」 F.メンデルゾーン

第二礼拝 (午前11時10分)

讃美歌 76番 339番
詩篇 第56編(旧約 P889)
説教 「あなたも赦しに生きられる」
聖書 ルカ6章37節～42節(新約 P113)
司式 山下 純一 兄 聖餐司式 吉村和雄 牧師
説教者 菊池 美穂子 副牧師

前奏曲「フーガ 長調」 J.S.バッハ

○讃美歌 76番

○ピアノによる讃美
「いずみとあふるる」 讃美歌353番

○聖歌隊による讃美
「いざ主をほめまつれ」 G.J.ヘンデル
いざ主をほめまつれ
主を喜び歌え 主をほめよ
いざ正しき者よ
主をほめたたえよ 歌いまつれ

感謝して ほめまつれ
「弦の琴 かきならしつ 歌声あげ
み神に謝して喜び歌え
新しきみ歌もて 喜びの声あげ
緒琴をかき鳴らしつ
いざ主を歌いまつり ほめまつれ

○讃美歌 339番

聖餐曲「悩むものよ、とく立ちて」 J.B.カッツ

後奏曲「フーガ」 F.メンデルゾーン